

## すべては活舌トレーニングから

あめんぼ あかいな あいうえお

かきのき くりのき かきくけこ

・・・・・・・・・・・・・・・・

わいわい わっしょい わいうえを

台湾から留学のリウケンケンさんは、北原白秋の「あめんぼうの歌」を最後までそらんじていたことだけを取っても気合の入れ方が普通ではありませんでした。尊敬する人物は大学の近所に神社がある吉田松陰。そこから関心は萩市の松下村塾に飛び、伊藤博文、山縣有朋、桂小五郎達に拡大して、帰国して今なお関心は収まらず。虎視眈々<sup>たん</sup>と再留学を目指して勉強中の様子です。

なお、日本に新型コロナウイルスが急拡散した折には、多くのマスクなどを自主的に急送してくれた元留学生です。

### 【リウ・ケンケンさんからの寄稿文】

三年経った。

大学を卒業してからはわずか一年余りだが、日本を出てきたのは、すでに三年前のことだった。その後も何度も訪ねていったが、全く違う感覚が湧いてきた。ここにいた思い出も、ここでしたことも、何もかも違っていった。

もし、もう一度やりなおせば、こんな自分でも同じ道へ行くのであろう。

日本で交換留学する道へ、もう一度向かうのであろう。

あつという間に過ぎた三年間、日本での勉学は自分の武器となり、通訳と翻訳として勤め始めた。日本で学んできた経験も、学習に対する態度も——未熟の自分であるが、コツコツと、例え泥中を這うような醜い姿で進んでいても、物事を、この業界での知識を胸に刻みたいという態度を、日本で学んだ経験をもって、今でも努力し続けられた理由だと思っている。

なぜなら、例え学校で学んだことと職場でのことが違ったとはいえ、努力せねばならない、一刻も早く状況を把握せねばならないということは基本的には変わらないからだ。自分から見た日本は、いつでもなんどきでもコツコツと、何でも最善をつくそうとしているという国なので、恐らくその態度も、思想もあの一年間に身に染みていったかもしれないと勝手に思っている。

いったん夢をかなえ、通訳と翻訳を通じて、日本と台湾の架け橋として勤めている自分である。業界でも専門用語にいつも苦しみ、戸惑っていることもたくさんあるが、全力で努力したいという思いを胸に、そして何があったらすぐに上司や同僚に聞くのが、自分にとって一番大切なことだと思います。何としてでも必ず仕事をできるだけ完璧に成し遂げるという考えをもって、何でもかんでも順調とは言えない、むしろ転んでいる日々を送っているとでも言えるが、知らぬことに対する好奇心を抱え、そしてわからないことがあったらすぐ情報や答えを聞き出すことが、何よりも重要な事だと思っている。

自分のために日本の知識としつけとを注いでくださった先生方に、自分のために知識と優しさをくださった学校に、ここで敬意とお礼を。

走って、転んで、たとえ消えない痛みを、そして未知と不安が溢れていたとしても、その国、自分の第二の祖国日本で学んだことを、態度を、勉学を胸にすれば、きっとなんとなく勇気を抱いて、なんとなく次へ行けるのではないかという気がした。

もし、もう一度やりなおせば、こんな自分でも同じ道へ行くのであろう。

日本で交換留学する道へ、もう一度向かうのであろう。

——「もし、もう一度やり直せば」

台湾淡江大学⇄駒沢大学交換留学生 リュウケンケン  
20210221